

経営会議（11月22日開催）議事概要

1 開催日時

平成17年11月22日（水）13:30～14:40

2 場所

本部棟特別会議室

3 出席者

市川理事長、谷口副理事長（学長）、沼田専務理事（副学長）、高橋専務理事（副学長）、谷村邦久委員、深澤信夫委員、菊池武利委員

（事務局）

遠藤総務財務室長、吉岡参事兼教育・学生支援室長、佐々木研究・地域連携室長、古川副参事兼財務課長、高橋(啓)主査、小友主幹、立花主事

（柳村委員は欠席）

4 会議の概要

- 会議資料は別添のとおり
- 理事長あいさつ

学園祭が10月末に行われた。寒い日だったが地元の方も参加していただき盛大であった。学校教育法で義務付けられた外部機関による認証評価について、学内検討の結果、評価機関は財団法人大学基準協会とすることとした。平成20年度に受ける予定であり、今年も含めて19年度までの取組が実績となることから本腰を入れて中期計画に基づく学校運営をして参りたい。

【協議事項】

(1) 岩手県立大学アイーナキャンパスの整備について

- 沼田専務理事より中間報告として岩手県立大学アイーナキャンパスの整備について資料に基づいて説明があり、下記のとおり質疑応答された後、承認された。

<主な質疑応答>

- ・ 非常にいい取組だと思うが、新たに出費が増えるわけで経費が問題である。収入予定も記載されているが、本当に見込んだ通りお金は入ってくるのか。今後ずっと継続していくのならば内容も充実させていく必要もあると思うのでコストについて方針があれば説明してほしい。
- あくまで大枠の数字である。まずは県への予算要求がベースにある。授業料も取るが、金額についてはこれから検討する。あまり高くしても設置の趣旨に反するので抑えざるを得ないと考えている。確かに一番重要な問題であり、早急に検討しなければならない。県にも打診はしているが、正式な予算折衝はまだという段階である。私案だが冠講座にして講師料を節約することなども検討する必要があると考えている。工夫をしながら、なんとか軌道に乗せたい。
- ・ 県財政は公債比率などからいっても逼迫しており、補助金、交付金の類の見直しが入るだろう。今後も交付金が得られるのか、あるいは無償での貸与が続くかなどは非常に不安である。ある大学の例だと非常勤講師への旅費を一部後援会が負担しているという。財源確保のために安易に後援会費の値上げなどを行うようでは優秀な学生は集まらない。計画自体はすばらしいので是非進めてほしいが、資金面が心配である。補助金はあてにせず慎重に財務を詰めなければならない。
- ・ 他大学に比べても内容が充実しているので資金も必要なのだろうが、県の財政が不安定でお金

が足りないとなれば、企業から引き出すことも一つの方向ではないか。産学連携等の取組が少し不足しているように見える。

→ ここまでの計画もまだできたばかりであり、予算等は大枠である。施設については当面、無償貸与とのことだが、委員のご指摘のとおり、いずれは賃借料が必要かもしれない。また、今後いろいろな企業との関連も深くなると思うので、そこを取り込んでいきたい。

・ 公開講座について、参加者からどの程度受講料が取れるだろうか。例えば 10 回シリーズで 2 万円とっている大学の例もある。このくらいであれば講師料も含めてある程度ペイする。受講料を払った人は対価を求めて講義にも積極的に参加すると思う。

→ これまで本学の公開講座は無料であった。法人化前の国立大学は文科省の規定によって受講料をとっていたはずなので、そのあたりの金額が参考になると思う。

・ 県立大の先生の知識をもっと県民に広めるべきであり、知識とはそんなに安いものではないと思う。しかし、年金生活者や主婦など収入のない人は無料にすることを考えたほうがいい。

→ これまで 8 年間無料でやってきているが、参加者を見ると半分位は年金生活者のようである。今後どうするかは考えなければならない。

・ アイーナは指定管理者制度が導入されるはずだが、管理者サイドは採算を求めると思う。県立大がいわば店子の立場になるのだとしたら、応分の負担を求められることもあるので慎重に考えたほうがいい。

→ アイーナ全体の管理者はエヌ・ティ・ティファシリティーズグループに決定したところである。なお、本学分については本学で管理することになっている。

(2) 全学共通教育を企画運営する組織案について

○ 沼田専務理事より全学共通教育を企画運営する組織案について資料に基づいて説明があり、承認された。

(3) 予算の執行状況（上半期）について

○ 高橋専務理事より上半期の予算の執行状況について資料に基づいて説明があり、承認された。

(4) 給与改定方針について

○ 高橋専務理事より給与改定方針について資料に基づいて説明があり、承認された。

(5) 平成 18 年度予算編成について

○ 高橋専務理事より上半期の予算の執行状況について資料に基づいて説明があり、下記のとおりに質疑応答された後、承認された。

・ 交付金は毎年削減なのか、15%カットは厳しい。アイーナ分は別口なのか。

→ 別口で要求している。

→ 県との運営費交付金の策定方法がまだ決まっていないが、県の財政を考えると相当程度厳しくなると考えられる。

・ 公立大学の多くは国立大と私立大に挟まれて埋没するのではないかという危機感を持っている。国の支援もあまりなく、財産や蓄積された経営のノウハウもない。公立大は地方自治体に財政を頼っているが、ほとんどの大学で今後運営費交付金は削減されると見ているようだ。大企業のない地方でいかに外部資金を集めるかが課題である。

以上